
飛行機雲

カンナ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

飛行機雲

【Nコード】

N2738B

【作者名】

カンナ

【あらすじ】

念願のイギリス留学をかなえることが出来たミキ。しかし、愛しい人との長くて、切ない長距離恋愛が始まる。大学生ならではの、幼い恋と夢のギャップを描く。

出発（前書き）

作者の実話に基づく恋愛ストーリーです。

出発

あなたはどこにもいない……。バスから見おくるあなたの手を振るすがたが小さくなっていく。

最後のキス。突然何も考えずにあなたにしがみついたっけ。でも、本当に短かった時間。あの日なんて来ないって信じたかった。いつも泣いてて、あなたと離れるなんて考えなかったよ。

四月の桜が咲き誇る早朝五時。重いスーツケースを抱え、バス亭へ向かう。

いつも通ってた道がいつもと違う。次第に朝日が昇ってく。あたりには、眠たそうな目をしたオジサンが犬を連れて散歩している。

すれ違い様に、おおきな荷物をじっと見つけてオジサンはぺっと痰を吐く。

まだ、私も眠くて足下がふらつとする。バス亭まであと五分かな。息もまだ白い。

階段がさらに私の体力を奪おうと待ち伏せか。いやになってくる。でも、まだこんなの始まったばかりじゃないか。留学は今日から正確には明日イギリスに着いてから、約4カ月。

一段一段掛け上がると高速バスのハイウェイが見えて来た。朝なのに車が忙しく走っていた。

バス亭に目を向けるとだれかの姿が見えた。え。信じられなかった。彼がいるなんて。

そう。

そこにいたのは、あの昨日キスを交わししばらく会えないねっと、抱き締めあつた彼じゃなくて…

今朝出会った痰のオジサンが犬と待っていた。

まもなくするとバスが来て、荷物を乗せ階段を上がる。

後ろを振り返ると、私の名前がどこから聞こえた。

しかし、相変わらず風景は変わらない。あのオジサンはまだこちらを見ている。あの犬なんてどこを見ているかわからない。

もう一度、

ミキ…と

はあい??

紛れもなく、力也の声。最後に、会いたい！だけどこだろう??

つづく。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2738b/>

飛行機雲

2011年1月19日04時28分発行